

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 11 月 5 日

【評価実施概要】

事業所番号	3670100027
法人名	社会福祉法人 光風会
事業所名	グループホームやまもも
所在地	徳島県徳島市下町本丁59-26 (電話) 088-644-1115

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 20 年 11 月 5 日

【情報提供票より】(平成 20 年 10 月 10 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 10 年 9 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤:7人、	常勤換算7人

(2) 建物概要

建物構造	木造	
	2 階建ての	1 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	光熱費7,000円、その他実費	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	- 円	昼食	- 円
	夕食	- 円	おやつ	- 円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 10 月 10 日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名		
要介護3	1 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.1 歳	最低	71 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	徳島さくらクリニック
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は周囲に「やまもも」の大きな木や緑が植えられ、全ての部屋から庭木や季節の移り変わりが眺められる。利用者は花や野菜の手入れ、日光浴などに各部屋から自由に出入りできるようになっている。職員は法人内の研修会や勉強会などで学び、利用者一人ひとりの思いを理解し、その人らしい生活を送れるよう日々努力している。隣接する協力病院からは2週間に1度の訪問診療に加え、状態変化時の受診や居室での処置なども行われ、安心と安全も確保されている。また速やかに情報提供できるよう介護と医療・看護記録は分けられている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な課題である「市町村との連携」は改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は自己評価項目を全職員に割り振り、担当項目への振り返りを行いながら取り組んでいる。最終的には管理者が集約したものとなっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者や家族、民生委員、婦人会代表、地域包括支援センター職員、法人職員、管理者、職員が参加している。主な討議内容は活動予定や外部評価結果の報告、月間スケジュールや献立の紹介、質疑応答などの意見交換を行っている。また会議録は回覧して職員の確認印・サインがある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	事業所内に意見箱を設置するとともに、重要事項説明書に外部機関への申立窓口を明記して説明している。また運営推進会議でも毎回、意見交換を行いサービスの質の向上に努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	法人が加入している町内会の情報をもとに、職員と一緒に清掃活動に参加している。地域のお祭りの時に御神輿が回ってきてくれたり、保育園児が定期的に来訪してくれたりといった交流が続いている。またお寿司などを差し入れてくれる方や犬の散歩中に立ち寄ってくれる方、「庭にコスモスが咲いた。」と言って誘ってくれる方がいるなど、双方向的な地域交流が行われている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の意見も取り入れ、家族との関係・地域とのつながりを大切に一人ひとりの想いを理解し、その人らしい生活を支えていくよう事業所独自の理念を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は毎日の朝礼で理念を唱和・共有し、理念にそった支援を日々実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人が加入している町内会の情報をもとに、職員と一緒に清掃活動に参加している。地域のお祭りの時に御神輿が回ってきてくれたり、保育園児が定期的に来訪してくれたりといった交流が続いている。またお寿司などを差し入れてくれる方や犬の散歩中に立ち寄ってくれる方、「庭にコスモスが咲いた。」と言って誘ってくれる方がいるなど、双方向的な地域交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者・全職員は評価を実施する意義を理解している。自己評価は全職員で取り組み、外部評価についても運営推進会議で報告しサービスの質の改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者や家族、民生委員、婦人会代表、地域包括支援センター職員、法人職員、管理者、職員が参加している。主な討議内容は活動予定や外部評価結果の報告、月間スケジュールや献立の紹介、質疑応答などの意見交換を行っている。また会議録は回覧して職員の確認印・サインがある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者と市町村担当者は積極的に情報・意見交換を行う関係が築かれており、お互いに連絡を取り合うなどしてサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態は、面会時や月1回報告して1行日誌のコピーも渡している。急な状態変化時には電話連絡をしている。金銭管理は個別の出納帳で行っており、面会時に確認してサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に意見箱を設置するとともに、重要事項説明書に外部機関への申立窓口を明記して説明している。また運営推進会議でも毎回、意見交換を行いサービスの質の向上に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は利用者・家族との信頼関係を築くためには馴染みの関係づくりが重要であり、また職員一人ひとりの専門職としての幅広い経験が積めるよう適切な時期の異動が必要と考えている。異動時には引き継ぎ期間を十分に設けるなど、利用者への影響を防ぐ配慮を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は法人内で行われる週1回の研修会や月1回の勉強会に加え、外部の研修会などにも積極的に参加している。研修内容や資料は回覧して確認印を残し、必要時に閲覧しやすいよう整理して保管されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会徳島県支部に加入し、研修会への参加や情報収集に努めている。また相互評価事業にも参加し、他の事業所と交流を図り、サービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時には事前に必ず本人や家族に事業所を見学してもらうなどして、場の雰囲気などを知ってもらっている。入居後も家族などと相談して面会に来てもらったりしながら、徐々に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と一緒に調理をしながら味見してもらったり、漬物の作り方を教えてもらったりしている。また利用者からほめられることで職員の技術が向上することもあるなど、共に支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で交わされた会話を大切に、利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望の把握に努めている。意思疎通の困難な利用者には、言葉かけや支援に対する反応、日頃の態度などから思いを汲み取ったり、家族からの意見を参考にしたりして本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は利用者や本人の意向、担当者の気付きなどを盛り込み、その人らしい生活を送れるよう作成している。計画書には家族の確認印・サインがある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は実施状況を毎日記録して1か月ごとに評価し、期間に応じて見直ししている。また状態変化時には必要な関係者と話し合い、随時見直ししている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族と相談しながら、医療機関への受診支援などを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と受診時に情報交換を行うなど、利用者や家族の希望にそった支援を行っている。また隣接する病院との協力体制もあり、定期的な検診などを支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については入居時から家族や関係者間で話し合い、全員で方針を共有している。病院や施設への移行などもスムーズに行われている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄や入浴介助の際には、一人ひとりの気持ちを尊重した言葉かけや行動を心がけている。また職員は研修を通して個人情報保護の理解に努め、情報の取り扱いに注意を払い、個人記録類は部外者の目に触れないよう保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調やペース、気持ちを尊重して音楽を聴いたりピアノを弾いたりできるよう支援し、その人らしい時間を過ごせるよう配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望を取り入れている。利用者と職員は一緒に食材を買いに行き、力を合わせて調理している。昼食前には毎日嚙下体操を行い、味付けなどの評価をしながら楽しく食べ、片付けのできる人は自分の食器を洗っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望にそって入浴できるよう支援している。利用者と気の合った職員が対応できるような配慮も行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日頃から利用者一人ひとりの生活歴や得意なことを活かした役割を分担し、お互いに感謝の言葉をかけ合いながら生き甲斐を感じてもらえるよう関わっている。洗濯物たたみは、全員が自分のものをたたんでいる。また家族同伴の遠足や外食などの機会も設けている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な戸外の散歩に加えて、衣類の買い物やお墓掃除・お参り、家族のお見舞いなどにも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関や居室は施錠せず、自由に出入りできるようになっている。利用者が外出する際には職員がさりげなく同行して納得するまで付きそっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、消防署の協力を得て避難経路の確認や消火器の使い方の訓練を月に1回行い、非常時呼集訓練は年に2回行っている。災害対策会議は月1回開催され、法人内各事業所間の応援態勢も整備されている。非常食の備蓄もされ、担当職員が管理している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は法人内の管理栄養士からアドバイスを受けている。食事や水分摂取量については、一人ひとり記録に残し、体調の変化時などには医師に情報提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	屋内には季節感が感じられるよう生け花や鉢植えがおかれている。限られた空間を上手に配置の工夫をして居心地よく過ごせるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れた筆筒などが使いやすいように配置されたり、利用者や家族の写真が飾られたりしている。衣類は季節ごとに入れ替えられるよう家族に呼びかけ、広々とした居心地のよい居室づくりに配慮している。		